

印刷新報

THE INSATSU SHIMPO

12月16日 木曜日
平成22年(2010年)

☆週一回刊☆

発行所 (株)印刷出版研究所
〒112-0041 東京都新宿区早稲田町5-14-11 電話03(5155)7925
FAX: 東京03(5155)7930・大阪06(6353)4944
〒530-0044 大阪府北区東天満2-9-10 電話06(6353)4966
年間購読料17,850円(税込) (郵便口座00120-4-47973番)

(木曜日発行) 第4309号 (昭和33年11月11日 第三種郵便物認可)

連産産 産業ビジョン 来秋発表 国際シンポの記念企画も

社団法人日本印刷産業連合会(猿渡晋会長)は、このほど「印刷産業将来展望検討委員会」を立ち上げ、15日に第1回の全体会議を開催した。2020年までの産業界を見通した印刷産業ビジョンを策定し、来年9月の印刷の月を中心に発表を行う。また、ビジョンに連動した国際シンポジウムの開催、記念出版などの記念企画を予定している。

委員会には、日印産連構成10団体、および関連業界団体、メーカーなどから幅広く委員が参加している。来年前半に、月一回ペースの全体会議のほか、検討ワーキンググループ委員会(経営労働、市場調査、技術、国際、環境の各WG)で課題の詳細を検討する。戦略検討課題として挙げられているのは、環境戦略、知財・資源戦略、セキュリティ戦略、デジタルネットワーク化戦略、多角化・高度付加価値サービス化戦略、マネジメント戦略など。

これに基づき、各WGでは次の課題を中心に検討している。・国際標準化市場(国際)・スマートコミュニティ市場、印刷産業エコロジ―戦略の検討(環境)印刷産業ビジョンについて日印産連の草野司朗常務理事は「2010年までの確定値を出したうえで、2015年、2020年の印刷産業のシミュレーションを行う。難

しい局面に向き合っている印刷産業だが、10団体を俯瞰しながら、次世代のために役立つ内容としたい。複数の委員会間でキャッチボールをしながら進めていく」と話す。

ビジョンの発表は来秋を予定。印刷文化典(9月20日)やIGAS2011(9月16・17日)が開催される来年9月の「印刷の月」と連動して、ビジョン発表記念企画を行う。海外からの参加者を招いた国際シンポジウムや記念出版を予定しており、電子書籍時代における印刷産業の役割などがテーマ候補に挙げられている。

大日本印刷とNTTドコモ、CIIグループ(大日本印刷の子会社)は7日、紙と電子の書籍販売を行うハイブリッド型総合書店の運営を目指す。共同事業会社「株式会社トゥーティファクト」の設立で合意した。設立日は12月21日を予定。新会社は、ドコモが持つ情報配信システムや決済システムと、大日本印刷のハイブリッド型総合書店「honto(ホン

紙と電子の書籍販売 共同事業会社を設立

大日本印刷とNTTドコモ

から電子書籍の販売を開始する。今後、大手出版社をはじめとする約200社から約10万点をめぐり、コン

中には、電子書籍の販売サイトと、CIIのオンライン書店「ピーケーワン(bk1)」のシステム提供を目指す。新会社の本社は東京都品川区。出資比率は大日本印刷51%、ドコモ40%、CII9%。

エコメディアラボ マンガでPR支援 企業の環境活動を解りやすく

IAの最適な組合せからCO₂排出量やコストの削減を実現する「メディアのエコ化」を提案している。今年11月18日には、みなど環境にやさしい事業者会議が六本木ヒルズビルで開催した「企業と環境展2010」において、企業・団体の環境活動をマンガ形式で解りやすく伝える「ECOファンブック」の取組みを紹介した。

報告を行った両社は「作成したファンブックは、社内外で好評を得ており、今後もさまざまな分野に応用できると感じている」と述べ、産業界で世代交代が進むなか、情報の伝え方も新しい世代に合わせた形に変化していると指摘した。



薄紙印刷などにより環境に優しい印刷物製作を提案するカワセ印刷株式会社(川瀬健二社長、東京都港区)は、メディア制作におけるCO₂排出量の削減を実現し、企業の環境活動をわかりやすく効果的に伝えていくことを目的に「エコメディアアラボ」を昨年9月に設立した。顧客の抱える課題をヒアリングし、メディア



「企業と環境展」でECOファンブックの採用企業から話を聞く川瀬社長(右)